

# 群馬菱の実会だより

<http://www18.ocn.ne.jp/~hishimig/>

(本紙は「群馬菱の実会ホームページ」から、毎月1日に、カラーで綺麗にご覧頂けます。ネットでの閲覧をお奨めします)

## シリーズ・馬電の思い出

馬電二代所長 中川俊一郎さんの思い出  
(昭和39年5月～昭和45年12月)



新任にあたって

風薫る五月、群馬製作所所長に任命され、これから皆さんとともに生活することになりました。

上州の風土、人情にはじめて接するのですが、気性の激しい一面、人情も細やかときいている皆さんと、生産の場を通じ共に語り、共に働くことができるようになったことをうれしく思っています。

私は幼少時を、九州の山奥の百姓の家で、伯父伯母のもとで従兄弟たちと一緒に育てられたので、しよせんは山猿のたぐいす。物心がつきはじめた頃は、私を生み落して間もなく相次いで病死してしまつたという噂の父母を懐しがたり少しうらめしく思つたり、そして結局は泣き虫の感傷屋になつてしまいました。でも、たいいていの苦しいことや、悲しいことには耐えてゆく自信はできました。粗末な衣食でも無作法な言動でもあまり気にならないのも育ちの野蠻さの故であろうと、今ではかえつて感謝すら覚えています。

だから、多分に自然の山河のままに素朴な野性の漂いを覚える上州は、なんとなく私の性に合いそうだと一人決めに喜んでるところです。

そして何よりも、すべての面において群馬製作所は若々しい。何もかもまだ目新しい瑞々しさをたたえているように見えることが最も心楽しい次第です。すでに出来上つたもの、古くなり固まつてしまつたものはあまり興味がないし、たとえ興味があつてもどうにもならないものです。未来の夢豊かなもの、今後成長し発展し光り輝いてゆくものだけが、心身を打ち込んでゆける生甲斐の対象にな

るにふさわしいもの、と私は信じています。まことに、澁刺とした若く新しい当所の将来に、改めて、私の夢の拡大を直感しています。

それにしても、立派な歴史や伝統の基礎をより確実に打ちたてたいものです。若さと新しさは、当然に無垢であり、無地であることが前提です。うす汚れた中古品や、かびの生えたような暗い過去の影は払い去るべきものと思えます。今後、古いしきたりの中でもたもたしたり、涸れ萎んだ形式の中で凝り固まつたりすることなく、伸び伸びと真一文字に立ち向う純真さの溢れる世界であつてもらいたい、そんな天地を築き上げてもらいたい、と希う次第です。

私も、若く新しい人間の力とその協力一致の精進さえあるなら多少の困難な問題は意とするに足るまい、との決意をもつて前進する覚悟です。

私の嫌いなものは、無気力と無誠意です。私の軽蔑するものは弁解と「ごまかし」です。

いちばん新しく、いちばん若いこの工場を、一日も早く、どの工場にも負けない立派な工場に仕上げなければなりません。そして、それは必ず出来ることなのです。皆さんの覚悟如何で、この群馬製作所はどんなにでもなるのです。

やるべき職責は徹底的にやりぬいてもらいたい。尽すべきことは、いわば身命を賭しても果してもらいたい。正々堂々と積極的に前進してもらいたい、と私は念じてやみません。

この製作所についての、最後の責任は私が負います。安心してやるだけのことを思いきりやって下さい。

では仲良く、元気で、一緒に頑張りましょう。

## 【菱の実雑感】

以前、朝日新聞のコラム「天声人語」にこんな言葉が載つていた。『お年寄りの元気の秘訣は「キョウウヨウ」と「キョウウイク」である・・・』  
「教養」「教育」のことと思いきや、「今日、用がある」と「今日、行くところがある」ということ。なるほどと思つた。我々にとつて最高傑作のギャグではないか。「頭の体操」で知られた心理学者、多湖輝氏の紹介らしい。▼菱の実だよりを毎号見ていると、皆さんそれぞれに積極的に行動し、楽しんでる様子が伝わってくる。菱の実会員は、この心配はないようだ。菱の実会は「キョウウヨウ」「キョウイク」の絶好の実践の場といえる。▼この菱の実会に未加入の方がまだたくさんいる。ぜひひと声かけて仲間を増やし、一緒に「キョウウヨウ」「キョウイク」を実行しようではありませんか。▼シルバー川柳にこんなのがあつた。「欲しかった、自由と時間、持て余す・・・」こんなことにならないように。菱の実会は、元気の源です。(篠崎 辰夫)